

## AR から QR、無料で簡単設定、全学年に広がった動く学級便り「新・日刊動画新聞」

朝来市立竹田小学校 教諭 國眼 厚志

キーワード：タブレットパソコン, Wi-Fi, クラウド

### 実践の概要

2018 年「学級だよりの写真が動く?! 学校と家庭をつなぐ日刊動画新聞」と 2020 年「休校中に毎日活用! ブログ貼り付けによる学習動画超簡単配信」の 2 件の研究を活用し、費用をかけない形での動く学級便り「新・日刊動画新聞」を配信。校内全学年に広まった。

#### 1. 休校中の学習動画貼付けをヒントに QR コード作成

2018 年の取組は多くの保護者を驚かせた。単なる写真付きの学級便りがまるでハリポターの映画のようにカラーで音声付きで再現されるからである。同様の取組を 19 年度も続け、AR (拡張現実) 動画という用語も保護者の間で普通に使われるようになった。ところが 20 年度は予算を確保することができず、「動く学級便り」の取組は潰れたかに見えた。ただ、20 年度はそれどころでは無く、コロナ禍による一斉休校で、学級便り云々ではなく、授業そのものが行えない状況下であり、その対応に苦慮していた。

本校では一斉休校が要請された 20 年 2 月 27 日から一部担任(本執筆者國眼)による学級ブログ配信が行われ、日々の連絡や今後の方向性を知らせるツールとなった。その中で学習動画の URL をブログに貼り付けることで未履修の学習を 3 月に進めることができた。年度が替わり緊急事態宣言・休業要請により、5 月まで休校が続いたときも毎日 4~8 本の動画を貼り付け、国語・算数・道徳も進めていた。その様子を他学級の担任が見て同様に学習動画を貼り付けることで学校全体に広がり、「ブログ貼り付けによる学習動画超簡単配信」につながった。6 月から休校が明け、学校生活は制限がありながらも少しずつ日常を取り戻していった。ほとんどの担任はブログの更新を止め、通常の紙版の学級便りを発行していた。学習動画配信の際に動画を置くサーバを当初は YouTube としていたが、15 分までの制限と広告があるので、途中から GooglePhoto に切り替えた。これにより時間制限が無くなったのと広告が消えた。動画は



写真1 GooglePhoto から動画選び

GooglePhoto に上がっているので、その URL をブログに貼り付けることで動画配信を行っていたのである(写真1)。その URL を QR コードに変換し(写真2、3)、学級便りに貼り付け、輪転機で印刷することで、2018~19 年度当

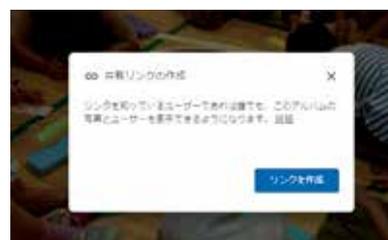


写真2 リンクを作成・コピー

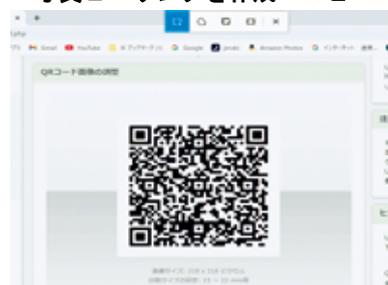


写真3 QR コードをサイトで作成し、スニッピング

時行っていた AR 動画配信に代わる「新・日刊動画新聞」を再興することができた。

#### 2. 動く学級便りの作り方、AR よりも簡単

QR コードによる動く学級便り「新・日刊動画新聞」は簡単に作ることができる。昨年度ブログ貼り付けによる学習動画配信を行っていたので、学級担任は誰もが、Google アカウントを持ち、スマホやタブレットで撮影した動画は自動で GooglePhoto に上がっていた。①その中で動く学級便りにしたい動画を選び、クリックしてリンクをコピーする。②コピーした URL を QR コード作成サイトに貼り付け、そこで大きめに作成する。③そのコ

ード部分だけをフォトショップなどの画像処理ソフトや Windows Snipping (スニッピング) によりトリミングして学級便りに写真とともに貼り付ける。④輪転機で印刷して保護者に配布する。⑤保護者は学級便りの QR コード部分をスマホやタブレットのコードリーダーで読み取り、動画を視聴する。これのできるのである。この中で一番難しいのは①以前の Google アカウントを取得し、撮影したそばから自動アップロードする設定にすることであるが、これは学習動画作成時に誰もが行ってたので、あとはとても簡単なことばかりであった。QR コード作成も当初は「むずかしい」「分からない」と嘆く女性教員や年長教員もいたが、一度作成し、Windows 標準装備の Snipping によりトリミングができることが分ると毎日作成を楽しんでいるかのように続けることができた。そして何より普及性があったのは、これだけのサービスがすべて無料で行えることである。AR 動画配信を行った「マチアルキ」は少ない容量のものでも年間数万円の費用がかかるので予算が確保できたときは良いが、そうで無いときは見せることさえ不可能になる。そして写真の精度についても、AR マーカーはかなりの鮮明さが必要であるが、QR コードはそこまで求められない。AR をアップロードするには 10 秒程度の動画であってもかなりの時間 (10 分以上) を要するが、GooglePhoto には撮ったそばからアップされているので待ち時間は不要である。しかも何分の動画でも可能である。簡単で利便性が良く経費もかからないため、誰でもすぐに始められる新しいインフラだとも考えられる。

### 3. 実践の成果、授業参観代わりに活用・職員間の絆

現在竹田小学校では全てのクラスの学級便りが QR コードによる動画配信となっている (写真 4、5)。今や写真だけでなく物足りなく思う保護者も多いだろう。コロナ禍で参観日も少なく人数も限定され滞在時間も 1 時間のみとなっている。そんな中でも授業の様子や校外学習、協働学習の様子は指導要領の改訂とも重なり、保護者としては見たい、知りたいところである。それをリアルタイムでは無くても QR コードにより音声も入った動画で配信されるのは大変嬉しいことである。本取組により家庭にタブレットを購入されたり、テレビとつなぐケーブルやセットトップボックスを導入されたりする家庭も増



写真4 運動会応援練習の様子を動画で配信



写真5 ホワイトボードや授業支援システムで発表

え、ICT 機器が学校だけでなく普通に家庭にどんどん入り込み、おじいちゃんおばあちゃんも喜んでスマホのリーダーを立ち上げる契機となったとも聞く。1 枚の紙の学級便りからスマホを片手に談笑する家族の絆が生まれてきたと考えられる。これは紙を媒体とする新しい IoT の出現であるとも言われた。そして、子どもから始まる家庭内 ICT 利活用が確実に進んできたものだとも今回の取組で感じている。

同時に「これどうしたらうまく Snipping できる?」「キャプチャーってどうするの?」「これ、編集してみようか」今まで ICT が苦手とされる女性教員や年長教員たちの普通の職員室での会話である。学級便りという昭和の昔から学級担任に脈々と引き継がれてきた媒体に、QR コードという平成・令和のツールが職員室にドンピシャとはまり、撮影された動画を見ながら談笑できるもう一つの絆が、今まさに深まっており、GIGA に向けてチームで取り組む空気になっている。